

第2章 現状と課題

1 本県の運動部活動の現状

(1) 運動部員数

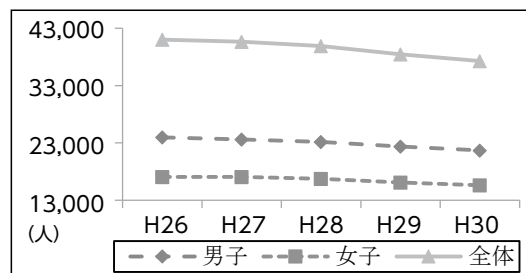
【現状まとめ】

中学校は、生徒数の減少に伴い運動部員数が減少傾向となっていますが、高等学校は増加傾向となっています。

ア 中学校

(単位：人)

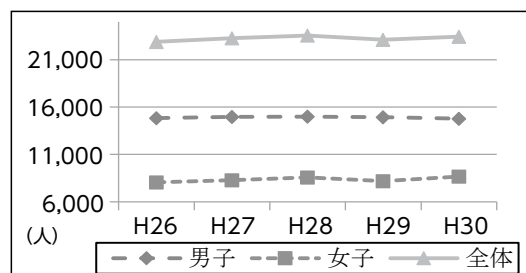
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
男子	23,965	23,601	23,155	22,355	21,669
女子	17,046	17,071	16,725	16,090	15,634
全体	41,011	40,672	39,880	38,445	37,303



イ 高等学校 (全日制)

(単位：人)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
男子	14,840	14,970	14,993	14,946	14,787
女子	8,060	8,299	8,556	8,176	8,669
全体	22,900	23,269	23,559	23,122	23,456



(2) 運動部加入率

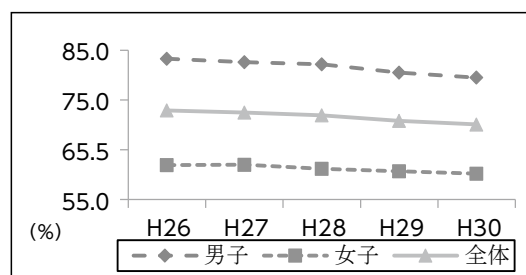
【現状まとめ】

中学校では、運動部員数が減少傾向ですが、運動部加入率はほぼ横ばいとなっています。高等学校は、女子の運動部員数の増加に伴い全体の加入率が上昇傾向となっています。

ア 中学校

(単位：%)

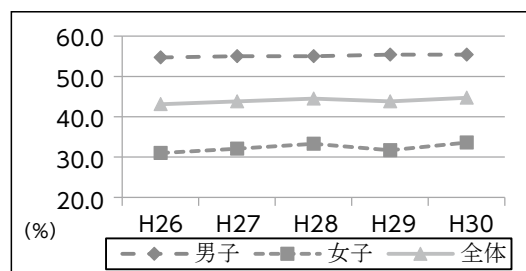
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
男子	83.3	82.6	82.2	80.5	79.5
女子	61.9	62.0	61.2	60.7	60.2
全体	72.9	72.5	71.9	70.8	70.1



イ 高等学校 (全日制)

(単位：%)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
男子	54.7	55.0	55.0	55.4	55.4
女子	31.0	32.1	33.3	31.7	33.6
全体	43.1	43.8	44.5	43.8	44.7



(3) 運動部設置状況

【現状まとめ】

中学校では、運動部員数が減少傾向であるのに対し、設置運動部数がほぼ横ばいであるため、1部あたりの平均部員数は減少傾向となっており、その結果、合同チーム数が増加しています。

高等学校は、生徒数が減少傾向ですが、女子の運動部員数が増加傾向であり、全体の加入率も増加傾向となっています。運動部設置数は、僅かではありますが減少傾向であり、そのため1部あたりの平均部員数は増加傾向にあります。

ア 中学校

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
1校当たりの平均運動部設置数(部)	11.9	12.0	11.8	12.0	11.9
1部あたりの平均部員数(人)	20.2	19.8	20.1	19.4	18.9
県中体連合同チーム登録数(部)	10	20	22	27	31
県中体連合同チーム編成学校数(校)	20	40	44	56	70

イ 高等学校

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
1校当たりの平均運動部設置数(部)	18.2	18.1	18.2	17.8	17.9
1部あたりの平均部員数(人)	16.9	17.1	17.3	17.6	17.7

(4) 地域スポーツクラブでの加入率

【現状まとめ】

中学生が地域スポーツクラブへ加入している割合は、年々増加傾向にあり、特に男子が顕著です。高校生が地域スポーツクラブへ加入している割合は、ほぼ横ばいです。

ア 中学校

(単位：%)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
男子	5.3	5.7	6.3	6.6	7.4
女子	3.0	3.2	3.1	3.0	3.5
全体	4.2	4.5	4.7	4.8	5.5

イ 高等学校

(単位：%)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
男子	2.0	2.0	2.2	1.8	1.8
女子	1.9	2.0	1.9	1.5	1.8
全体	1.9	2.0	2.1	1.7	1.8



(5) 地域スポーツクラブ加入状況

【現状まとめ】

地域スポーツクラブの加入状況の種目別上位は、男子が中学生高校生ともにサッカーが1位、次いで中学生は硬式野球、高校生は空手道となっています。女子は、中学生高校生ともに1位がダンス、次いで中学生は水泳、高校生は空手道でした。他にも、テニスやバレエ、バスケットボール、バドミントンが多くなっています。

この結果、中学校の運動部では、サッカーや軟式野球部の部員数が減少し、それに伴い合同チーム数が増加しています。

	中学校		高等学校	
	男子	女子	男子	女子
1位	サッカー	ダンス	サッカー	ダンス
2位	硬式野球	水泳	空手道	空手道
3位	水泳	バレエ	バスケットボール	水泳
4位	テニス	サッカー	テニス	バドミントン
5位	空手道	空手道	水泳	バレエ

(6) 運動部の活動状況

【現状まとめ】

中学校は、朝練習の実施率が全国と比べて高くなっています。平日の活動時間は短い傾向にある一方、土日の活動頻度が多く、活動時間が長い傾向にあります。高等学校は、平日の活動時間が2～3時間、休日は3～4時間となっている部が多い傾向となっています。

ア 平日

(ア) 朝の活動

本県の中学校は、全国と比較して「原則活動していない」と回答した割合が低く、「30分以上活動している」と回答した割合が高くなっています。

(単位:%)

	中学校		高等学校	
	県	全国	県	全国
原則活動していない	35.8	62.8	59.5	70.8
15分程度	1.6	2.3	1.0	1.1
30分以上	46.4	34.1	9.5	19.3
無回答	16.2	0.7	0.1	0.8



(イ) 放課後

本県の中学校は1～2時間程度としている部が最も多く、高等学校は2～3時間程度としている部が最も多い状況にあります。全国と比較して、本県の平日の活動時間は短い傾向となっています。

(単位：%)

	中学校		高等学校	
	県	全 国	県	全 国
原則活動していない	0.5	1.7	0.5	1.2
15分程度	0.4	0.2	0.5	0.2
30分以上	0.7	0.7	1.1	0.4
1時間程度	7.5	3.1	2.6	1.3
1～2時間程度	45.5	34.5	31.5	21.7
2～3時間程度	38.0	50.4	46.6	53.4
3時間以上	4.3	8.7	14.2	21.0
無回答	3.1	0.7	3.1	0.8

イ 土 日

(ア) 活動頻度

本県の中学校は、土日ともに活動している割合が高く、高等学校は土曜日に活動し、日曜日は活動していない割合が高くなっています。

(単位：%)

	土曜日				日曜日			
	中学校		高等学校		中学校		高等学校	
	県	全 国	県	全 国	県	全 国	県	全 国
原則活動していない	2.5	4.1	6.8	5.1	19.7	28.3	42.8	27.8
毎月1週程度	2.1	3.0	2.6	1.7	5.4	7.2	4.8	4.2
毎月2週程度	5.5	6.3	3.2	3.0	11.4	9.8	5.5	5.2
毎月3週程度	17.9	16.3	9.0	7.0	18.5	15.1	7.7	7.8
原則毎週	68.6	68.7	74.9	81.9	37.9	32.4	27.8	49.7
無回答	3.5	1.7	3.5	1.4	7.2	7.1	11.4	5.3

(イ) 活動時間

活動時間は、中学校・高等学校ともに3～4時間が最も多くなっています。

(単位：%)

	土曜日				日曜日			
	中学校		高等学校		中学校		高等学校	
	県	全 国	県	全 国	県	全 国	県	全 国
原則活動していない	2.4	3.9	6.1	5.2	18.6	29.1	41.0	28.4
1時間以内	0.5	0.6	0.6	0.5	0.7	0.7	0.3	0.5
1～2時間	2.9	3.6	5.3	3.0	2.1	2.1	1.9	1.9
2～3時間	15.1	23.4	26.2	21.6	9.7	13.4	10.5	11.8
3～4時間	35.8	36.0	31.8	31.4	26.9	23.0	12.9	21.2
4～5時間	20.3	16.7	7.2	13.1	16.2	12.8	4.5	10.6
5～6時間	5.9	4.4	3.2	5.2	5.4	3.8	3.2	4.6
6～7時間	3.7	1.9	3.4	4.2	3.5	1.9	3.2	3.7
7時間以上	5.6	4.0	5.6	7.3	5.9	3.7	5.8	7.2
無回答	7.9	5.6	10.5	8.4	11.1	9.6	16.7	10.1

(7) 運動部（主担当）顧問自身の競技歴

【現状まとめ】

本県運動部主担当顧問のうち、中学校で41.6%、高等学校で35.1%の教員が、担当している種目の競技経験が全くないと回答しています。

(単位：%)

	中学校		高等学校			中学校		高等学校	
	県	全国	県	全国		県	全国	県	全国
中部学 部活	44.2	45.2	29.3	36.3	社会人 実業団	10.4	11.3	16.1	18.1
高部校 部活	29.9	36.7	36.8	47.5	プロ	0.0	0.2	0.0	0.4
ジュニア ユース クラブ	0.6	4.9	2.9	3.8	全くない	41.6	41.2	35.1	33.1
大部学 部活	24.0	23.8	26.4	35.2	無回答	7.1	0.6	8.6	0.8
大サー クル	8.4	8.1	6.9	7.5					

(8) 運動部（主担当）顧問としての意欲について

【現状まとめ】

主担当の運動部顧問の約4割が競技経験がない中、多くの顧問が「部員とともに活発に取り組みたい」や「指導はできないが見守りたい」と前向きな回答をしています。

(単位：%)

	中学校		高等学校	
	県	全国	県	全国
部員とともに活発に取り組みたい	60.4	61.9	58.6	65.5
指導はできないが見守りたい	17.5	20.5	23.0	19.8
あまり気が進まない	14.3	16.5	9.8	13.8
無回答	7.8	1.1	8.6	0.9

(9) 部活動の在り方に関する教員の考えについて

【現状まとめ】

多くの教員は、生徒のニーズに対応できる多様な部活動があるべきと考えており、さらに将来地域でも担うようにすべきと考えている割合が高くなっています。

(単位：%)

	中学校教員		高等学校教員	
	県	全国	県	全国
大会・コンクールでの好成績	12.8	10.6	14.5	12.9
運動習慣形成、楽しく	17.9	19.3	14.5	13.6
多様な部活動があるべき	41.0	33.5	44.5	44.0
将来地域でも担うようにすべき	27.7	36.0	25.8	29.2
無回答	0.5	0.6	0.6	0.4

(10) 保護者が考える持続可能な部活動に向けた在り方について

【現状まとめ】

多くの保護者は、今までどおり、できる範囲で部活動を行うべきと考えており、さらに経費がかかっても実技指導者を配置すべきと考えています。地域へ移行するべきと考えている保護者の割合は低くなっています。

(単位：%)

	中学校保護者		高等学校保護者	
	県	全国	県	全国
お金がかかっても実技指導者配置				
保護者が協力	4.7	4.0	3.0	3.4
地域へ移行	8.4	7.5	6.8	5.6
今までどおりできる範囲で	41.5	41.5	40.3	40.7
部活動はなくて良い	2.4	2.2	2.2	1.7
意見はない・わからない	10.3	12.2	16.4	15.9
無回答	0.9	0.7	0.9	0.7

(11) 外部指導者の活用状況

【現状まとめ】

平成 28 年度までは、国庫事業を活用し「地域スポーツ指導者」を派遣し、平成 29 年度からは、県競技力向上対策本部事業として「運動部活動補助員」を派遣しています。

		H26	H27	H28	H29	H30
中学校	校数(校)	67	68	68	67	69
	部活動数(部)	154	158	168	153	146
高等学校	校数(校)	29	35	34	32	37
	部活動数(部)	66	75	81	69	76
合計	校数(校)	96	103	102	99	106
	部活動数(部)	220	233	249	222	222
	人数(人)	218	231	247	220	219

(12) 運動部活動に加入している生徒の目的及び保護者が期待すること

【現状まとめ】

運動部活動に加入している生徒の最大の目的は、「良い成績」を残すことや「体力・技術の向上」となっています。しかし、保護者が期待することは、「チームワーク・協調性・共感」「社会性」「体力・技術の向上」「友達と楽しく活動」であり、「良い成績」と回答した保護者の割合は低い傾向となっています。

〈生徒の運動部活動の最大の目的の上位〉

(単位：%)

	中学校	高等学校
良い成績	32.2	25.1
体力・技術の向上	24.3	25.9
チームワーク・協調性・共感	18.6	19.6
友達と楽しく活動	9.0	15.1

〈保護者が運動部活動に期待すること〉

(単位：%)

	中学校	高等学校
チームワーク・協調性・共感	73.9	63.6
社会性	53.7	49.4
体力・技術の向上	47.1	40.6
友達と楽しく活動	26.5	31.5
良い成績	20.0	17.5
自信をつける	19.9	12.5

2 本県の運動部活動の課題と対応

課題1：少子化による影響



生徒数の減少に伴い運動部員数が減少しており、さらには部員不足により、単独でのチーム編成が難しいため、合同チームが増加傾向となっています。

対応策

- (1) 学校全体を通して運動部活動の魅力を多くの生徒に伝える。
- (2) 学校の設置者は、合同部活動等の取組が推進できるよう検討する。
- (3) 学校の設置者は、複数校合同チームや合同部活動での大会参加など柔軟な対応ができるよう大会主催者と検討し連携を図る。
- (4) 学校の設置者及び校長は、生徒の多様なニーズに応じた活動を行うことができる運動部の設置について検討する。

課題2：過度なスポーツ活動による影響



活動日数や活動時間が増えると生徒のスポーツ障害の原因となる他、教員の時間外勤務の増大につながります。

対応策

文部科学省が平成25年5月に作成した「運動部活動での指導のガイドライン」及び、県教育委員会が平成30年9月に作成した「栃木県運動部活動の在り方に関する方針」に則り、生徒の心身の健康管理に配慮する。また、学校における働き方改革の観点からも、適正な休養日の設定や活動時間の制限を行う。

- (1) 休養日の設定
学期中は週当たり2日以上休養日を設ける(平日1日、週末1日以上)。
- (2) 活動時間
平日は2時間程度、週末は3時間程度とする。

課題3：専門的な技術指導力を有する顧問の確保が困難



担当する部の競技経験や指導経験が全くない顧問が多く、そのことが負担の一因となっています。

対応策

- (1) 研修会への積極的な参加を促す。
- (2) 中央競技団体が作成する指導手引きなどを活用する。
- (3) 外部指導者及び部活動指導員を導入・活用する。